Nagoya Ekisaikai Hospital

病診連携NEWS

2026. 8. August

（医）吉祥会 岡本医院様で新興感染症等診療継続計画（BCP）に基づく机上訓練を実施しました！

感染対策向上加算の連携開始以来、当院では毎年、連携医療機関の皆さまと新興感染症等を想定した訓練を実施しています。これまで、情報伝達訓練や物品管理、トリアージ、ゾーニングなどをテーマに、災害拠点病院として災害対応にも応用できる体制づくりを意識しながら、55の連携医療機関の先生方やスタッフの皆さまと取り組んできました。

今年度は、令和6年政府行動計画および令和7年愛知県・令和8年名古屋市新型インフルエンザ等対策行動計画の改訂を踏まえ、「新興感染症等診療継続計画（BCP）の実効性を確認すること」をテーマに活動しています。

その一環として、8月4日に岡本医院さまと机上訓練を実施しました。当日は、岡本医院さまより医師3名、看護師3名、事務職員1名の計7名にご参加いただき、イベントカードを用いながら活発な意見交換が行われました。

訓練では、「透析中の患者さんが発熱したら？」「アジア競技大会を観戦していた患者さんだったら?」「職員が次々と体調不良で欠勤したら？」など、実際に起こり得る場面を想定し、それぞれの対応や役割分担について検討しました。新型コロナウイルス感染症流行時の経験も踏まえ、「感染症患者さんや他の患者さん、そして職員をどのように守るか」「限られた人員の中で何を優先するか」といった視点から、具体的で実践的な議論が交わされました。

印象的だったのは、過去に医師1名で診療を継続した経験が共有され、人員が限られる状況でも「現在入院中の患者さんと透析医療を最優先に継続する」という考え方が、職員の皆さまの間で自然に共有されていたことです。また、「体調不良時は無理に出勤せず、職員同士で支え合うことが診療継続につながる」という認識も改めて確認されました。

地域連携については、「各施設のBCP発動状況や人員・物品の状況を共有できる仕組みがあると心強い」「新型コロナウイルス感染症流行初期には治療法や治療薬の情報収集に苦労したため、地域でタイムリーに情報共有できる体制があるとよい」といった意見も聞かれました。平時から顔の見える関係を築き、互いに支え合える体制づくりの重要性を改めて実感する機会となりました。

そして、職種や立場に関係なく全員が積極的に発言され、お互いの意見を尊重しながら議論が進んでいたことも印象的でした。終始和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われ、日頃から良好なコミュニケーションが築かれ、「誰もが安心して意見を発信できる」心理的安全性の高い職場であることが伝わってきました。

このような組織風土こそが、非常時における柔軟な意思決定や診療継続を支え、地域の患者さんへ安心・安全な医療を提供し続ける大きな力になると感じました。

今回の訓練を通して、BCPは「作ること」が目的ではなく、「みんなで考え、話し合い、実際に動けるようにしておくこと」が大切であることを改めて実感しました。

今後も連携医療機関の皆さまとともに、新興感染症への備えを着実に進め、地域全体で安心・安全な医療を継続して提供できる体制づくりに取り組んでまいります。

岡本医院の皆さま、このたびは貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。

文責：名古屋掖済会病院 感染対策室
薬剤師　二神 諒子

公益社団法人 日本海員掖済会
名古屋掖済会病院

地域医療支援センター 052-652-7954